西南学院小学校 学校長メッセージ
「学校通信 Wings 2025 年 12 月号」

人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。（ルカによる福音書６：３）

大学の西南学院史の授業で、「西南学院小学校の誕生と 16 年の歩み」の話をする機会が与えられました。そこで準備する中、小学校設置準備室の活動の一年間も合わせて学院史を読んでいきました。まず、小学校初代事務長の三苫さん（現大学事務長）が研修会で 2000 年に「一貫教育の可能性を求めて−小学校設立私案−」というレポートを出されことから、小学校が開校に向かって動き始めたことが分かりました。

小学校開校が 2010 年ですから、その間たくさんの検討会議があり、それ以上に多くの方々の祈りがあって、今の小学校があるのだと改めて感謝せずにはいられませんでした。

> 受験生の大幅な増加が見込めない現在においては、受験生をいかにして集めるかよりも、いかにして良い学生を確保できるかに焦点が移ってきている。そのような中、保育園・幼稚園から大学院まで、数の確保もさることながら、「建学の精神」に触れた学生を世の中に送り出すことのできる一貫教育が実現できれば、本学院にとって有益な施策の一つとなるのではなかろうか…。
>
> 「一貫教育の可能性を求めて−小学校設立私案−」

とレポートには記されていました。

改めて読みながら、「キリストに忠実なれ」という建学の精神に触れた学生を世に送り出すために意識を持って、小学校の子どもたちの教育活動に当たらなければならないことを痛感しているところです。

10 年前の 5 年生が書いた、「大人になった自分への手紙」も西南学院小学校の歩みの一つとして紹介したのですが、聴講している大学生と近い年頃だったためか、しっかり話を聞いてもらえたようでした。一部を紹介いたします。

> **○ この手紙を書いたことを覚えていますか。11 歳のわたしが、大人になったあなたへ手紙を送る理由は、あなたがつくっている世界がどのような世界になっているかをたずねたかったからです。立派な大人になって、日本のこと、世界のことを真剣に考えていますか？「11 歳の私に言われたくない！」って言われると思うけど、私は、そんな私でいて欲しいと願っています。**
>
> **○ 今の私は、学習発表会で「平和の鐘をならそう」という発表の練習をしています。そこで歌う「平和の鐘」という歌を聞いた私は、「平和をつくらなければならない。」という気持ちでいっぱいです。今のあなたはそういう意識がありますか？もし、あなたの横にあなたの子どもがいるなら、平和についてしっかり語ってあげてください。五年生で行ったヒストリーツアーで、被ばくされた証言の会の方々に、「語りついでくださいね。」と言われたではありませんか。今のあなたがどんな仕事についているかは分かりませんが、何にせよ「人のために全力をつくして、平和を創り出してください。いままで、いろいろなことをいっしょうけんめい学んできたあなたなら、きっとできると信じています。この手紙を読んで、ハッとしたなら、今がチャンスです。あなたが平和の使者として用いられるのだということを心にとめて、平和のために一歩一歩、歩みを進めてください。**

10 年後の今、社会の状況が良くなっているとは言い難いですが、西南学院小学校で学んだ子どもたちが、平和の使者として活躍してくれていることを願っています。

(文責　黒木佐幸)